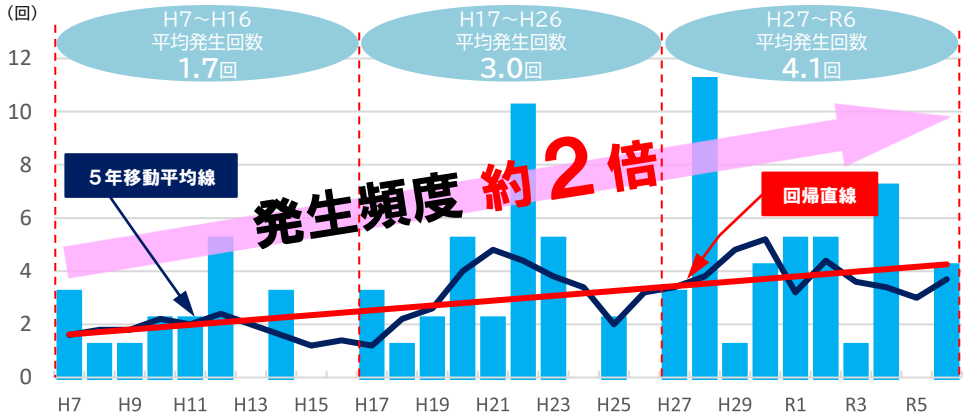
5 近年の水害と緊急的な治水対策

近年の降雨状況

時間降水量が50mmを超える降雨の発生回数は、年々増加傾向にあり、20年前と比べて発生頻度は約2倍に増加。



(出典:気象庁データより河川砂防課作成)

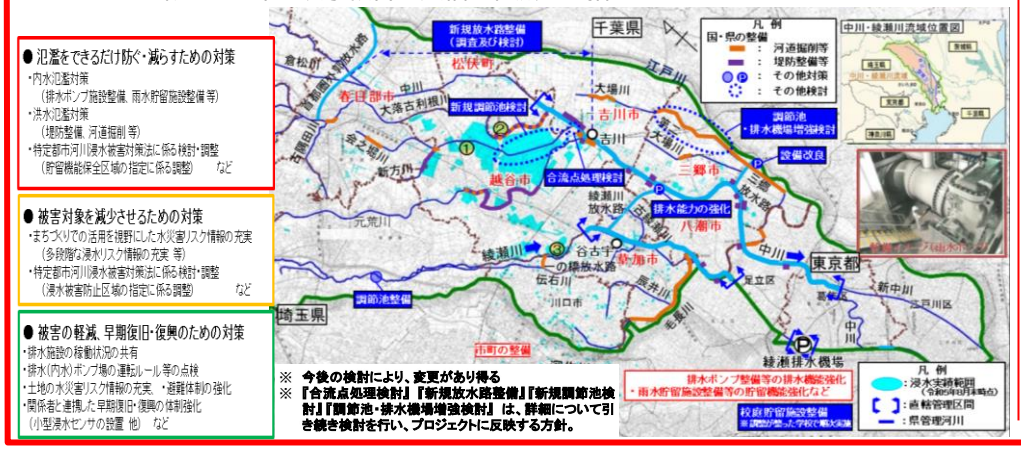
令和5年 梅雨前線及び台風第2号

中川・綾瀬川流域の埼玉県下流部で約4,000戸の家屋浸水被害が発生

中川・綾瀬川緊急流域治水プロジェクト

緊急的な流域治水対策

浸水被害の要因が内水氾濫であることを踏まえ、市町において排水ポンプ整備等による内水氾濫対策の加速化、国、県において内水の排水先となる河川での洪水氾濫対策の加速化などにより、概ね5か年で浸水被害の大幅な軽減を目指します。



※ 今後の検討により、変更があり得る
※『合流点処理検討』『新規放水路整備』『新規調節池検討』『調節池・排水機場増強検討』は、詳細について引き続き検討を行い、プロジェクトに反映する方針。

水害の状況と治水対策

令和元年 東日本台風

埼玉県内では7箇所で堤防が決壊するなどにより、約7,000戸の家屋浸水被害が発生

入間川流域における治水対策

①多重防御治水の推進(関東流治水システムの踏襲)

河道の流下能力向上
(樹木伐採)



遊水・貯留機能の確保・向上
(調節地)





排水機能の向上
(排水機場)





②減災に向けた更なる取組の推進

○防災情報の共有化のための取組
○関係機関が連携した水害に対する事前準備のための取組 等

忍川浸水対策重点地域緊急事業

緊急的な治水対策

河道掘削、新たな調節池の整備、校庭貯留、「田んぼダム」等を実施し、早期に地域の安全性の向上を図るとともに、浸水リスクの高いエリアの土地利用規制を強化(都市計画法第34条第11号の指定の解除)するなど、コンパクトなまちづくりを検討します。

事業効果

河道拡幅で流下能力向上・貯留施設整備等で河川への流入量減少 ⇨ 浸水被害を早期に軽減

被害写真





